



津奈木公民館
電話 (78) 5400
○右の題字は「徳富蘇峰さん」
の額を写したものです。

津奈木

津奈木



那有



「午歳」!! 飛躍の年!!

融再建や不良債権処理の仕方は日本経済全体を萎縮傾向に落し入れ、デフレ経済の中では、危機的状況を加速させただけだと思います。経済だけでなく、日本文化そのものも破壊されぬかと心配です。地方全体を視野に入れ、日本の独自性をも考えながら段階的改革の方向を選んでもらいたいというのが私の切なる願いです。こういう不透明な時、町の行政は自ら制約されませんが、町民の方々がこの町

津奈木町長 西川 裕

「危険」よりの脱出の年へ

新年のごあいさつ

に住み続けたいと思っただけのように努力していきたいと思っっています。美術館もオープンして、重盤岩と一体となった文化的エリア構想が完成に向かっていきます。又、中体連での津奈木中の二年連続優勝という明るいニュースもあります。子供達の頑張りに応えるためにも、町の将来に対する明確なビジョンを明示しつつ、明日の明るい津奈木町の発展に努力していきたいと思っています。

町民各位におかれましては、清々しい中にも大変厳しい思いの新春をお迎えのことでしょう。昨年のスタートにあたり、二十一世紀の幕開けを、「環境と心の世紀」と申し上げたことを思い起こしております。地球規模での環境悪化は加速し、自然と調和した人間の



心の理解を越えるテクノロジの驚異的進歩が進行しています。それに加えて、世界情勢に目を転じれば、正に新しい二十一世紀型戦争とも呼べるアメリカにおける同時多発テロという下での日本経済の落ち込みは危機的状況にあります。今の政府の推進する構造改革の方向は、長期的改革の展望自体、間違っていないのでしようが、短期的手法と、状況認識は見誤っているのではないかと思います。即ち、性急なアメリカ型金

平成14年1月1日

津奈木公民館報

第342号(6)

子ども美術館 (11)

「やまなし」

津奈木小六年 松田千恵美

宮沢賢治の「やまなし」という物語の絵を描きました。月の光を、金の粉がちりばめられたように表しました。かには赤や朱色、オレンジと少しずつ色をかえながら描きました。宮沢賢治の幻想的な世界が描けたと思います。

町文化協会奨励賞作品



(教科書抜粋)

そこらの月明かりの水の中は、やまなしのいいにおいでいっぱいでした。三びきは、ぼかぼか流れていくやまなしの後を追いました。その横歩きと、底の黒い三つのかげ法師が、合わせて六つ、おどるようになって、やまなしの円いかけを追いました。

お知らせ

成人式御案内

平成14年の成人式は、文化センターで1月3日(休)の午前10時から開催します。成人者の皆さん誘い合わせて参加して下さい。

(受付)

午前9時30分から10時まで

※ 受付は早めをお願いします。

親子「たこあげ」大会

参加者募集

●日時 平成14年1月20日(日)

午前10時から12時まで

●場所 津奈木総合グラウンド

(いろんな賞を準備しております。)



昨年力走する津奈木チーム

今年こそは……を

合い言葉で

駅伝大会へ向けて

新春一月十三日(日)、恒例の県内で最も古い第五十二回熊日三太郎駅伝競走大会が行なわれます。大会当日は、水俣市役所前を午前十時スタートし、湯ノ見海岸道路を抜け、津奈木・芦北の三太郎を越え、田浦町農業就業改善センターをゴールとする六区間(中学生十区間) 41kmのコースに各チームの熱戦が期待されます。

なお、本町からは一般の部二チーム、中学生の部一チーム(津奈木中学校単独チーム)が予定されており、選手は大会に向け多忙の中で津奈木町の名誉にかけて日々練習を重ねています。町民皆様の絶大な応援をよろしくお願いします。

又男・林田佑一・福田必・森山広行・松永清・藤原審二・田口伸二・清水良二・平野新市・倉野義彦・倉本健一・前田守康・斉藤拓巳・長浜勝二・宮島哲男・農原由二郎・開田龍一・堀田将豊・竹本昌広(中学生の部候補選手)

津奈木護・農添啓一・津奈木佑太・林省吾・堀田大樹・平田直之・江口和郎・池田翔平・野崎慶祐・古本俊二・真野翔太・福田祥秀・山本翔太・藤原恵美・宮川瞳・石田麻奈

編集後記

新年明けまして

おめでとうございます

今年も新しい歳を迎える事が出来たことを皆様と共に喜び申し上げます。

昨年は暗い出来事ばかりでした。今年こそは明るい話題を午に託したいものです。町内の出来事、話題、エピソードがございましたらご一報下さい。公民館報編集員一同頑張ります。

編集委員

石田ミサ子 篠原 尚子
澤井 静代 田尻由起恵
栗塚 岩雄

祝成人

21世紀を君たちの力で!!

成人者名簿							
地区	氏名	地区	氏名	地区	氏名	地区	氏名
竹中	鶴野 拓志	大泊	新立 基子	福浦	福田 まなみ	日添	林田 哲弥
	山田 竜藏		諫山 直実		福山 智美		開田 勇生
	竹永 麻紀		柳迫 香理	平国上	村上 めぐみ		松永 健太郎
	橋本 恵	中尾	川野 慶雄		野崎 俊介		吉野 正訓
染竹	野田 秀一郎		洲本 亜由美	平国下	野崎 貴広		上村 恵理子
	福田 直也	古中尾	中尾 友香		村上 恵美		篠原 美春
	川口 洋隆		山本 麻衣子		佐々木 慎太郎		伊藤 博史
	元村 瞳		山本 真理		長濱 研一		林田 昭久
浜崎	大園 夕紀子	倉谷	林 辰徳		長濱 忠臣		吉野 浩也
	岡下 祐也		平松 大祐		長濱 裕次郎		宮山 敦史
	前田 武士		堀田 将豊		西本 秀樹	小津奈木	古杉 将光
桜戸	釜 辰徳		松永 智華		山口 高史		山本 貴也
町中	元村 めぐみ	内野	寺本章 紘		實光 由紀子		倉本 絵理
新川	山下 勝史	上下門	荒川 慎	日当	伊藤 敏和		林田 和也
	高橋 麻美		谷口 愛弓		濱田 哲宏		長道 一成
	山下 舞		竹田 亜紀子		伊藤 晴美		徳田 真路
古川	川崎 孝雄	福浦	福山 孝美		岩崎 奈津美	辻	下川 拓恭
	磯見 恵理		福山 将志		森山 智佳		谷 由布
	山下 恵理		福田 真希		上村 真悟	丸岡	宮原 裕美
	山本 博志		福山 省吾		千々岩 優介		
	村上 真紀		福田 香織		林田 久美子		
大泊	新立 恵美		福田 尚子	日添	伊藤 章史		

※ この名簿は中学校卒業名簿を参考につくりました。



成人になって私の決意



「成人」それは自分一人の力で迎えられるわけではない。これも家族、先生、友人、地域の方々のおかげで心身ともに成長できたと思います。私は現在、町内の職場に勤務して1年半になります。仕事の方では、嫌な事、辛い事、悲しい事

これまで、いろんな人達と出会い沢山の事を学んで

きましたが、これからは沢山の友達と出会うっていいと思います。そこで、「成人」となる日を境にいろんな面で成長し、いろんな事を学んでいきたい。



福田 香織

看護の勉強を始めて5年。私は多くの患者と出会い、沢山の事を学んだ。そのような中、知識・技術・経験が乏しい私は、自分の意見に自信が持てず患者に不安を与えた事も多くあったと思う。しかし、成人し就職を迎える今、自分の行動に



堀田 将豊

「成人」この言葉に正直、実感が湧かない。これが本

心だ。やっぱり、学生の時と生活観がたいして変わってないからそういう思いになっているのだと思う。唯一、変わった事と言えば、学校が仕事に、自転車が車になった事ぐらいだ。考え方を変えれば、着実に前に進んでいるんだろうけど。だから私は、これから常に前向き、マイペースに過ごすことを一番に考え、着実に一歩一歩大人へと近づこうと思う。

なごやかに交流会!

支部長 諫山美保子(日添上)

11月15日、赤崎婦人会主催で、老人会の方々と、区長さん、民生委員さんをお迎え、70名程で、交流会をおこなった。

楽しみにして頂いた様で、早目に来られた方も多く、婦人会が会食の準備をする間、ビデオを視たり、隣りの人と、おしゃべりに花を咲かせられたりしていた。献立は、エビめし、山芋入りのくずかけ、さつま芋の金とん等、手づくりばかりでしたが、中味を聞かれ

津奈木町文化協会

「文楽の里清和村」研修

文化協会主催による三十二団体中二十三団体と事務局による研修会を実施しました。

協会としては初めての企画でしたが四十八名の参加で文化センターを定刻に出発しました。清和村は人口三千名程の小さな村で日本の農村文化の原形を「今」に伝える清和文楽鑑賞をしました。文楽で名高い「傾城阿波の鳴門」の巡礼歌の段の熱演があり人形使い、



交流会風景

語り手、人形の表情と三者一体による公演、観客を魅了させ感涙を覚えさせる場面があり感動しました。伝統を継承して行く事は大変であるが、約百五十年の伝統を目的の当りに感じました。

部落解放熊本県研究集会

去る11月17日(土)から二日間の日程で、第15回部落解放熊本県研究集会が、水俣市立総合体育館で開催されました。主催は部落解放同盟熊本県連合会。

「部落差別の現実をふまえ、部落解放基本法を制定し、あらゆる差別のない21世紀を築こう」をテーマに、そして、「人権教育・啓発推進法の具体化と、人権教



つなぎふれあい祭り
二〇〇一年開大会結果
去る11月4日、つなぎ文化センターで同好会による大会が開催されました。成績は次のとおり
A組優勝 石田重治
B組優勝 林田昭徳

あけぼの大学

社会探訪記

此の度、教育委員会による平国校区あけぼの大学に参加したので研修報告をいたします。

参加者三十一名(女子二十四名、男子七名)で平国コミュニティセンターを定刻より少し遅れて出発しました。合串、福浦、女島を経て日奈久インターから高速道で菊水インターまで行き蓮華院誕生寺に十時半頃着き早速記念写真を撮り説明を聞く。世界一の梵鐘として有名で重さ約三十八トン、直径約三メートルの巨大梵鐘です。また、この寺は「一願成就」のみで祈願の種類も家内安全、開運厄除等々の祈願。また、蓮華院は法事、葬儀等は行なっていないと言う説明があつてから境内を自由に一巡して昼食を済ませて次の研修地「田原坂公園」へ。この公園は明治十年の「西南戦



蓮華院にて

されることを嬉しく思います」と話されました。

今回は、二日間を通して四名の方の講演を主体に、その後、質疑応答の時間を設ける方法での研修会でした。

「子どもはほめて育てよ」と言う人がいる。また、「近頃の親はあまり叱ることもできなくなった」という人もいる。我が子を一体どう育てたらよいのだろうか。

ある調査によると、親からほめられることによって、次ももっとほめられるようにがんばろうと積極的な姿勢につながっている子どもが全体の三分の二、また逆に何を頑張っても余りほめてもらえないと親への不満を表わす子どもが三割いる。

(ベネッセ教育研究所)

これらの結果は、やはり「ほめる」事が教育上いかに必要かを物語っている。



「ほめて育てる」

赤崎小学校長 後藤 千秋

場合も同様である。次は、ある機関誌に掲載された「教師の実践例である。」

最近暴力事件を起こした男子生徒の学級に向いた教師は、まずみんなの前でその生徒をしつかりほめた

という。「彼は毎朝、勤めに出るお母さんを駅まで送ってから登校しているんです。……」このように男子生徒のいいところを心底ほめた。その上で、「そんな心の優しい君が、どんな理由があるにせよ、暴力に訴えるなんて、先生は残念だ。……」と、諄々と諭していた。結果、今まで突っ張っていたこの生徒の態度が変わってきたという。ほめることで心の扉が開かれ、話を聞く姿勢も生まれてきた

ここに、こんな人が……

吉野楠夫さん(87) セノさん(86) (日 添)

吉野楠夫さん、セノさん御夫婦は昨年ダイヤモンド婚(六十五年)を迎えられましたが、仲良くシルバーカーに乗ってみかん園に通われるのが日課です。

以前は農耕用運搬車の荷台に奥さんを



お正月には御主人の米寿の祝いを予定されていてその

の御祝いに子供さん全員から贈られたものです。

息子さん夫婦にお孫さん二人の理想的な家庭で、家のことは全部お嫁さんがしてくれて暇だからみかん山に行くのだとおっしゃっていますがお元氣だから出来ることですね。

昨年お嫁さんが怪我で入院されていた時「家んな中こつで忙がしかとに爺さんがみかん山にも連れて行くのできつか」とおっしゃった事があり、「一人じゃ寂しかったでしょう」と答えた



ことがありますが、その言葉でもわかるように何処に行かれるのも一緒です。

これからも仲良く元氣でいて下さい。(篠原記)

短 歌

本郷武雄選

肥後狂句

つなぎ短歌会

人知れずかよう獣のあるならむ
草踏みたおし路の一筋
寺本ツルヲ

喜寿迎え中尾山にてコスモスを
バックに記念の写真撮らるる
福田ハ重子

退職後あこがれていしフラダンス
されども腰のふりままならず
西川 ムキ

秋風に揺られておりし濃き茄子は
朝餉の皿に艶めきてあり
沢田しずを

十三年忌に集いて子等は合唱す
父の愛せし「ラバウル航空隊」
白浜美和子

秋祭り出店並ぶをめぐりきて
花うる店にしばしを憩う
西 滋子

ワイパーに紅葉一つとまらせて
日暮れの街を共に走りぬ
野田 浦子

〔今回の笠〕
○ぬしもぬし ○ごゆつくり
一笠二句を 二月八日(金)迄
津奈木町教育委員会へ

※今回は、鳥居達生氏の投句は都合により休みます。

なんとこい、金ですむならまかせとけ
表彰式、金婚式は来年か
表彰式、そんな時だけは別人に
賞之助

なんとこい、カネも時間も余つとる
表彰状、公民館の壁かざり
万 葉

なんとこい、俺にまかせろ後の事
なんとこい、口先だけは一人前
表彰式、感謝をこめて金券で
表彰式、昔はもっとありがたく
神無月

なんとこい、ぶつかり稽古の辛かつ
なんとこい、只で呉るこで良かも
んば
表彰式、まだ一ぺんも、縁の無か
表彰式、金一封も有つとかい
幸 相



ゲートをねらって



懇親会風景

平成13年度モデル公民館 浜崎地区発表会

十一月二十五日、浜崎のモデル公民館発表会を実施しましたところ、良い天候に恵まれ、西川町恵まれの始め多数の来賓の方の御臨席を得まして、楽しい一日となりました。

新幹線工事による架橋の見える高台の眺めのよい浜崎公園で、八チームによる、ゲートボールの試合から始めました。試合終了後場所を公民館に移動して「浜崎の昔と今」というテーマで大園英樹元公民館長の説明があり、懇親会に移る中で、浜崎の懐かしい運動会の映像を観賞したら、時には甲高い声を上げて楽しんでたのが印象に残る一コマであり公民館内は、人、人、人で熱気に包まれていました。やはり地区だけでやる運動会は顔見知りの人だけであ



開 会 式



町長、始球式



前区長の発表「浜崎の歴史と今」

郷土を知ろう

二本の道(その一)

津奈木太郎峠を一気に下って千代塚まで来ると、誰もがホッとします。孝女千代が眠る野中村を過ぎ、やがて松木原の馬借。佐敷から

り、多数の参加につながったのでしよう。浜崎地区は、現在新幹線の工事が着々と進められ、高速道の工事開始の説明会も終了し、やがて浜崎地区が分断されるのは明らかです。それ故それ等に対応するためにも、地区民の連帯感を強固にするべき時であると考えられます。

今回のモデル公民館発表会をスタートとして、私達が準備作業に、全員参加で協力し合った熱意と、行動力、そしてお互いの話し合いを大切にしたいものです。

浜崎区長 寺下清徳

重い荷物を負ってきた馬も人足も交替して貰いたがった。坂本家を馬借といひ、お客さんがあると、馬も人足も畑に出ていたため呼び集めて歩いた。その間、客は待っているよりほかはない。薩摩の殿様が通る時は前もって知らせであるから「松ノ木原駅所」又は「継所」に用心夫として待機させられていた。

宿は四里ごとに置くきまりで、佐敷と水俣が丁度四里。馬借には馬も人足も常駐してなかった。

光明寺前の眼鏡橋を渡ると左の山手を飯屋という。峠で日が落ちると、旅人は宿泊する宿がある。宿場ではないから飯の宿があった。ここあたりは熊本札の辻から二十一里、標識が立っていた。更に進めば字有田・大道がある。大道はまさに薩摩街道をいう。杓子越から角村へ。重盤岩に連なる津奈木城は薩摩街道を監視するためにある。歌坂から小津奈木へ。水俣はもう目前である。

津奈木を通る往還は二本あったと筆者は考える。次号で触れてみたい。

岡松莊一郎



読書感想文

「きまぐれロボット」を読んで

津奈木中1年 石田 麻奈

うに、おとなりの主人もこのマクラを使いたくなり、博士に貸してもらいます。でも、二カ月たっても、効果はなく、マクラを返しに来ました。主人の娘に聞いてみると、なんと、ねごとを英語で言っていたらしいのです。眠っている間の勉強が役に立つのは、やはり、眠っている間だけだったのです。こんな失敗だらけの博士ですが、本当に役に立つ道具を発明したこともあります。

私は、博士はチャレンジ精神があつていいと思います。失敗にもめげずに、たくさん発明をして、みんなをアツとおどろかせる博士はすごいし、まねしていききたいです。おもしろいのでみなさんもぜひ、読んでみて下さい。

